ＰＨＰ新書「地震予報」読者の皆様へ
No.１７７８長期継続大型地震推定前兆
原稿校了後の前兆変化についての続報

続報 No.３５２
2023.06/14（水曜）17:00 発表

八ヶ岳南麓天文台 串田 〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 電話 0551-38-3987 FAX 0551-38-4254

※PHP新書「地震予報」にNo.1778前兆について記したため続報公開。No.1778前兆は28年の観測歴上最長継続の最大に難解な変動。しかし首都圏直下・南海トラフ等大型地震は前兆検知から発生までは数日の可能性が高い。火山噴火も検知可能。これらのNo.1778前兆以外の他の地震前兆については本HPでは公開できません。E-mailまたはFAXで配信の観測情報でのみ公開しています。本観測をご支援下さる方に前兆変動の有無や発生推定内容等の観測情報を配信しています。観測情報配信の「公開実験」に是非ご参加下さい。

No.1778 長期継続前兆変動続報

日々配信の観測情報では、順次続報で詳しく報告していましたが、ＨＰでは大変間隔があいてしまいましたこと、深くお詫び申し上げます。

図１ CH20特異 5/15.6 終息

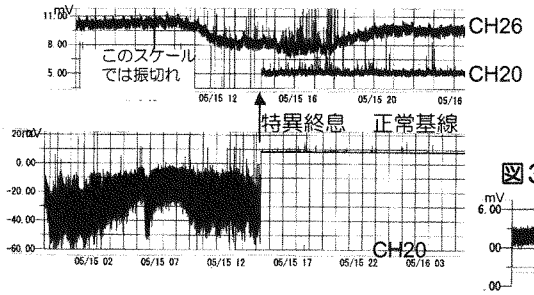


図２ K8 特異 5/30.3 終息

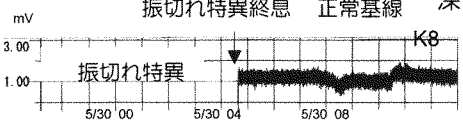


図３ ＢＦ地震前兆変動

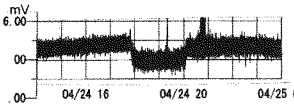


図３は2023.4/24.8に高知観測点K6に観測されたＢＦ変動（極大）他にはハヶ岳のCH23にもＢＦ変動観測。対応地震は5/26発生の千葉東方沖 M6.2 Tmap＝32日

長期継続特異変動が順次終息

図１は昨年7/28から長期に渡り顕著特異変動が出現していたハヶ岳のCH20です。長期継続の特異が5/15.6に終息し、正常基線に復帰した様子。図１の下図は変動全体を見るために電圧値（縦軸）を±100mVで表示。上図は通常表示の±15mVで表示してあります。

図２は同様に顕著な特異が継続していた高知観測点のK8が正常基線に復帰したときの基線変動です。現在CH20もK8も正常基線継続中。

図４ 模式図

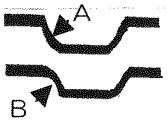


図５ ＢＦ特異変動

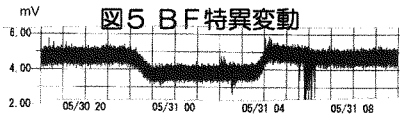
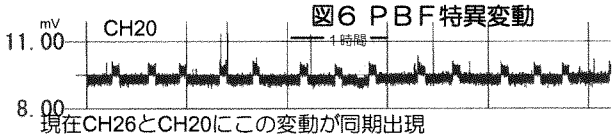


図６ ＰＢＦ特異変動



現在CH26とCH20にこの変動が同期出現

現在出現中の変動はＢＦ特異とＰＢＦ特異

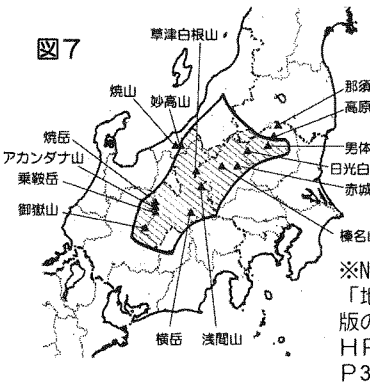
図３は本年5/26に発生した千葉県東方沖のM6.2地震のＢＦ前兆変動（高知観測点K6）です。図５はNo.1778関連として同じK6に出現している変動です。一見すると図３のＢＦ変動と近似していますが、曲線変動の始めの部分を見ますと、図４の模式図のＡとＢの様に変動の形が異なります。図３の千葉東方沖地震前兆ＢＦ変動は図４のＡ型の変動で、多くのＢＦ地震前兆変動はこのタイプです。しかし、No.1778関連で出現しているＢＦ近似変動の図５は図４のＢタイプの形の変動です。この変動の形の違いで識別できます。No.1778関連変動として、現在高知観測点のK6・K8に時々出現しています。

図６は一見しますとPBF変動に見えます。しかし、PBF変動はＢＦ変動と同じ曲線変動が途切れなく周期的に連続する変動です。図６の変動は基線上向きの変動が周期的に出現していますが、変動の間の基線には曲線変動が認められず、直線です。No.1778関連として昨年10月頃から継続出現している、ハヶ岳のCH26の変動はPBF変動ではなくPBF特異変動であると認識します。つまり現状継続出現している No.1778関連変動は全て特異変動であると認識されます。

現在継続中のPBF特異変動が終息した場合、PBFではないため、2022.7/28極大に対するものか、2022.9/3極大に対するものか不明ではありますが、他の特異変動が9/3極大から出現しているため、9/3極大に対する終息の場合は、他の特異変動も同時に終息する可能性が示唆されますので、判断可能です。

現状PBF特異もBF特異も継続中のため、2022.9/3対応では9/20以降。7/28対応では10/3以降に対応地震発生が推定されます。変動終息次第報告予定です。

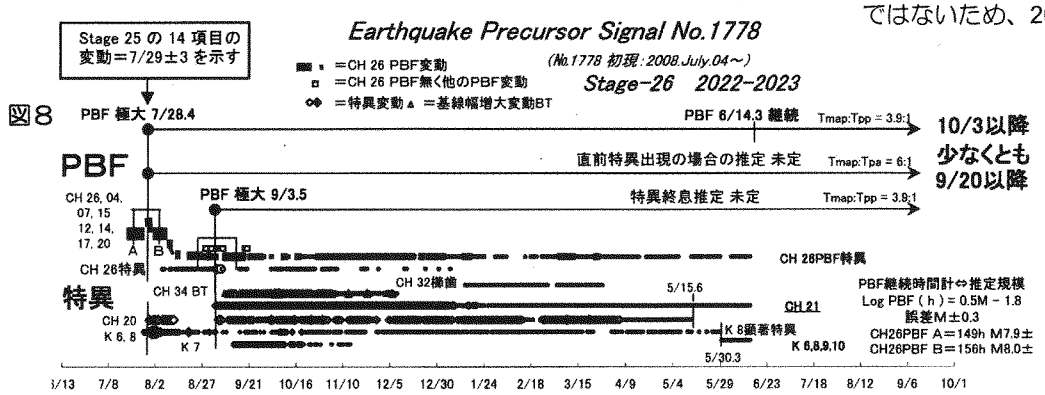
図７



●推定領域：図７太線内領域
斜線域＝火山近傍領域
※震央域の一部が斜線域内にある可能性有
●推定規模：Ｍ８.０±０.３
●推定時期：2023.9月20日以降
または2023.10月3日以降
今後の観測、前兆変動終息で推定予定
○地震種：震源浅い地殻地震
○推定発生時刻：午前9時±3
または 午後6時±3

※No.1778については「地震・火山の予報」解説資料2023-Ａ改定途中版のＰ31～Ｐ36に詳しく説明。今月下旬までにＨＰに更新予定の2023-Ｂ改定途中版ではＰ32～Ｐ35に詳しく説明しています。参照下さい。

図８



C) Copyright 2023 YSBO 八ヶ岳南麓天文台